

【第 28 回地域会議 議事録】

- 日時 令和 7 年 2 月 23 日 10:00-12:00
- 場所 新木近隣センター 多目的ホール
- 議題 安全・安心・住みよいまちづくりに向けて

=====

1. 開会挨拶

＜事務局長＞

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本会も第 28 回を迎え、ちょうど 10 年目となりました。これもひとえに、皆様のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

今回は、地域のコミュニケーションを深めることを目的として開催してまいりました。防災は「忘れた頃にやってくる」と言われるように、常に意識し備えておくことが大切です。本日は「安全・安心・住みよいまちづくりに向けて」をテーマに、自然災害への備えについて話し合いたいと思います。

また、自然災害においても火災と同様に、被害を受けた際の責任の所在について考える必要があります。実際に私自身、自宅で被害を受けた際に、火災保険の見直しが不十分だったことで大きな困難を経験しました。このような事態に備えるためにも、「自助」の意識を持つことが重要であり、さらに地域で支え合う「共助」の仕組みが不可欠です。

本日は、以下の 3 つの議題について話し合い、皆様と意見を共有していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

=====

2. 我孫子市

なし

=====

3. 議事

1) 自分・家族だけは被害に会わないとの考え方

1. 新しい避難所の確保

- 創価学会の会場が避難所として利用可能に。
- 周辺自治会の協力により、約 200 台の駐車スペースも確保。
- これまでの新木小学校に加え、新たな選択肢として活用できる。

2. 災害時のリスク認識と対応

- 東日本大震災の経験から、家具の固定や日常生活の安全対策が重要。
- 2014 年の台風による利根川氾濫では、避難勧告時の近隣への情報共有が課題。
- 八潮市の地盤沈下など、想定外の災害リスクにも備えが必要。

3. 最近の火災対応と課題

- 2 月 17 日に新木地区で火災が発生し、強風により 2 棟全焼。
- 一時避難先の確保が困難であり、自治会館の活用が検討された。
- 市がホテルと非常時契約を結んでいることが判明。
- 防災倉庫のアクセス改善、センサーライトの設置が必要。

4. 高齢者の避難と対応

- 避難訓練では、高齢者の移動が困難であることが確認された。
- 自治会の高齢化により、組織維持が困難になりつつある。
- 避難所の冷暖房設備の不足が問題。

5. 防災の意識改革

- 「自分・家族だけは被害にあわない」という考え方を改める必要。
- 近隣住民との協力が重要であり、地域コミュニティの強化が求められる。
- 定期的な防災訓練や情報共有が効果的。
- 自治会の防災活動への参加意識を高めることが必要。

6. ボランティア活動と支援体制

- 台風 19 号の被害後、瓦の修繕やブルーシート設置のボランティア活動が行われた。
- 市と連携し、ボランティアの派遣調整を行う仕組みが必要。
- 近所同士の助け合いが精神的な支えにもなる。

7. 防災対策の具体例

- 水や食料の備蓄は最低 3 日分を用意。
- 電気が止まった際の対策（充電器の準備など）を考慮。
- 災害時のトイレ問題について、ベットシートの活用が有効。
- ハザードマップの活用と、小規模災害時の自治会内対応の強化。
- 防災訓練時に消火器の使用方法を周知徹底。

8. 今後の防災活動の方向性

- 市役所と消防署の連携を強化し、緊急時の情報共有を迅速化。
- 消防団の役割が重要であり、継続的な支援が必要。
- 災害時の宿泊施設の確保や避難経路の確認を進める。
- グループホームでは BCP（事業継続計画）に基づく訓練を継続。
- 感染症対策を含めた複合災害への備えも検討。

結論

- 「自分・家族だけは被害にあわない」という意識を改め、地域全体での協力が不可欠。
- 防災訓練や情報共有を通じて、日頃からの備えを強化することが求められる。
- 高齢者支援や避難所環境の改善など、実際の災害発生時を想定した対策を進めていく。

2) 災害に対する準備物品（個人及び共通備品）

自治会の方にお伺いしたいのですが、自分の自治会では非常用のアルファ米と飲料水を備蓄しています。

賞味期限は 5 年間で、会員の数 × 5 年分を確保しています。

皆さんの自治会では備蓄されていますか？ もしあれば、その数量を教えていただけると助かります。

・新木団地（260 世帯）

アルファ米、乾パンを備蓄（約 200 食）

260 世帯分には足りない可能性があるが、ある程度は対応可能

・南新木自治会（728 世帯）

水、アルファ米、ビスケットを備蓄

若い世帯が多いため、災害弱者への配布を考慮

・小規模自治体（60 世帯）

食料備蓄は個人対応（自治体での備蓄なし）

発電機 3 台（ファンヒーターや扇風機用）を確保

個人の備えについて啓発活動を実施

・個人の災害準備（登山経験者）

浄水アダプタ（SAWYER 製、約 6000 円）を紹介

1 日約 10L の浄水が可能、川の水も飲料水に

・自治会での浄水対策

以前購入した浄水器は老朽化で廃棄

代替として 300L タンクを用意し、市の水配布車から補給可能

3) 建物、室内家具等の補強対策

※時間がないため割愛

<まとめ>

本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。

時間の都合で議題③は割愛しましたが、皆さんの貴重なご意見を伺えたことを大変有意義に感じています。避難については、必ずしも原則ではなく、家がしっかりしており、十分な備蓄があれば、自宅に留まる選択肢もあります。一方で、避難所には様々な課題もあります。

本日の議論を通じて、自助の意識や自治会内のコミュニケーションがしっかり取れていることを実感しました。ぜひ、今日の内容を地域の皆さんにも共有していただければと思います。

最後になりますが、アンケートへのご記入をお願いいたします。本日はありがとうございました。